

はじめに

本校の教育研究協議会は、昭和 22 年に「新教育のあり方」をテーマに、第一回目が開催されました。当時は、敗戦によって、教育の改革が叫ばれ、教育状況も混乱し、学習指導要領もまだ定かでない時代でした。時代を反映し、最もふさわしいテーマであったと考えております。引き続き翌昭和 23・24 年には、「中学校のカリキュラムの実際」に取り組み、新時代の中学校教育のあり方について、標準ともなるべき授業を研究し、また、具体的に授業を提案して参りました。

その後、幾度か学習指導要領の変遷はありましたが、常に、指導要領に準拠しながらも、生徒を見つめるとともに、将来を睨んだ実践授業を研究・提案し、現在に到っております。

この実践研究活動を基盤に、大会当日皆様方から戴きましたご意見を参考に更に研究を深めたものを、本誌「いとなみ」に纏めておりますが、これも発刊以来今年で、第 44 集を数えるまでに到っております。

昨今「生きる力」が叫ばれる中、三年前、全教科共通のテーマ

『「学びを拓く」生徒の育成』

1. 主体的に問題を解決をする力
2. 自己を表現し、コミュニケーションする力
3. 自己の「学び」を自ら振り返る自己評価の力

を掲げましたが、本年度はそのまとめの年度として位置づけられております。

古くから、「博学之」、「審問之」、「慎思之」、「明弁之」、「篤行之」といわれますが、我々のテーマは広い意味で、これらに繋がるものとも考えております。

教科の特性によって、取り組み方は少しずつ異なりますが、ご一読戴き、ご意見、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

和歌山大学教育学部附属中学校
校長 遠藤 秀機